

親子教室実施ハンドブック

モンゴル国
障害児のための教育改善プロジェクト

2019年

ННА 74.3

ДАА 371.9

Э-94

協力機関

- バヤンゴル区障害児の保健・教育・社会保障支部委員会
- バヤンゴル区保健センター（高齢者・子ども病院）
- バヤンゴル区第 8 ホロー
- 第 186 特別幼稚園
- 第 10 特別幼稚園
- フブスグル県障害児の保健・教育・社会保障支部委員会
- フブスグル県の保健局
- ムルンソム第 1 幼稚園
- ムルンソム第 4 幼稚園
- ムルンソム第 10 幼稚園
- Tarialan ソム保健センター
- Renchinkhunbe ソム幼稚園

親子教室実施ハンドブック

目次

はじめに	1
第1章 親子教室の基本的理解.....	4
1.1 親子教室とは	4
1.2 親子教室における基本的理念.....	5
1.3 親子教室における支援.....	5
1.4 実施方法	6
第2章 親子教室の実施.....	8
2.1 立ち上げ（準備）	8
2.2 当日の流れ	12
2.3 プログラムの実施.....	13
2.4 指導者の役割	19
2.5 留意点	20
別添資料	
別添1 連絡ノート	
別添2 参加者個人情報と参加記録（フォーマット及び例）	

はじめに

モンゴル国労働・社会保障省、教育・文化・科学・スポーツ省及びJICAは、2015年8月から「障害児のための教育改善プロジェクト」を実施しています。障害や発達に遅れのある子どもたちへの包括的な発達支援と質の高い教育を提供するモデルを構築すること（プロジェクト目標）を通して、すべての子どもが、ニーズに合った発達支援・教育サービスを受けられるようにすること（上位目標）を目指しています。

プロジェクトでは、障害を早期に発見し支援につないでいくことを目的とし、母子健康手帳の活用促進と1歳6カ月児健康診査の試行に取り組んでいます。これらの活動を通じて、発達に遅れのある子どもたちの発達を支援し、医療機関への照会だけではなく、わが子の発達に不安を抱える家族の相談に応じたり、就学前教育（主に幼稚園）につないでいく支援（つなぎの支援）の必要性が見えてきました。早期からの発達支援は、2次障害を防いだり、子どもの発達の可能性を最大限に引き出す上で大変重要です。

日本の自治体では定期健診後の支援として、障害や発達に遅れのある子どもに対し、集団での遊びの場を提供し、親を活動にともに参加させることで、子育てに関する相談を行い、子どもの発達を支援する親子教室を実施しています。

その実践例に倣い、パイロット地域において約1年半に亘り親子教室を試行し、そこでの知見を基に本ハンドブックが作成されました。

本ハンドブックは、親子教室をこれから実施する行政や機関を対象としたもので、親子教室の円滑な実施運営のための基本方針及び実施方法をまとめたものです。

本ハンドブックを通じて、親子教室が各地で実施展開され、障害や発達に遅れのある子どもの健やかな成長が促されることを願っています。

親子教室の参加者・指導者の感想

186 特別幼稚園の園長 D. Enkhmunkh :

まず、親子教室の導入を主催し、実施した、そして継続的な施環境をつくっていただいた JICA、教育文化科学スポーツ省、労働社会保障省をはじめすべての協力者に感謝申し上げます。

すべての子どもの各年齢に現れる成長・発達を認知、身体、社会性、情緒的な観点から把握し、発達の遅れを早期に発見し適切な支援サービスを提供することが親子教室の目的であると理解しています。

このハンドブックは親子教室をどのように始め、子どもの発達を促し、どのように地域の資源を基に実施することができるのかについて皆さまに知識と情報を与えることができると信じています。

このような良いことがもっと広まりますように（親子教室）...

バヤンゴル区の支部委員会の E. Nyamaa、B. Tsetsudei、バヤンゴル区の保健局の A. Odontungalag（親子教室の指導者）:

モンゴル国では幼児の発達の遅れや障害をなるべく早期に発見し、発達支援を行うことについて保護者の意識と理解が低いため、子どもの発達の遅れや障害を受け入れず、子どもの成長の機会を制約し、その結果、子どもに二次障害などが生じています。JICA が実施した「障害児のための教育改善プロジェクト」で初めて導入し、バヤンゴル区で試行した「親子教室」はこれらの問題を解決するための一つの手段です。

親子教室では、保護者が子どもと一緒にプログラムに参加し、子どもの心身の発達を促すための遊びをともに楽しむことで彼らの発達の遅れを受け止め、家庭で実施可能で簡単なわが子の発達の特徴に適した指導・関わり方を学ぶことができます。更に、指導者による相談を受け、他の親と話し、仲間をつくることにより子育ての不安を解消し、心理的な危機を乗り越えることに役に立ちます。

親子教室は、保護者が自ら子どもの発達を促す方向性を見つけ、子どもとの関わり方を習得するとともに、指導者から保健、教育、社会保障サービスに関し相談を受け、必要な場合はこれらのサービスへのつなぎ支援が受けられる大変重要な支援プログラムです。今後は子どもの発達の遅れや障害を早期に発見し、より多くの子どもとその保護者を支援するためには 18 カ月児健康診査の受診を高める必要があります。

フブスグル県の第1幼稚園の教諭 D. Tsolmon (親子教室の指導者) :

すべての子どもたちがそれぞれの世界を抱く。その世界を明るくするためにいつも頑張っているすべての人に「親子教室」の皆と私より幸運をお祈りいたします。私はフブスグル県での「親子教室」の指導者として養成され、発達の遅れや障害のある幼児とその家庭を対象にプログラムを実施していることに大変満足しています。

このプログラムの特徴は、幼児期に最も重要な役割を果たす活動を遊びとして実施し、子どもの心身の発達を促し、家庭に子どもとの関わり方を教え、さらに、社会保障サービスへのつなぎ支援を行っていることです。

私たちの行ったプログラムに参加したすべての子どもが他の子どもや保護者、指導者と関わることで、彼らの言語、運動、健康や精神の発達にたくさんの良い変化が現れていることが、指導者の私たちと多くの関係者にとって勇気とエネルギーを与えています。

この親子教室がモンゴル全国で実施され、支援を必要とする多くの子どもたちに幸せと喜びを届け、自信を持って自立した人として育てていくために、すべての人が心掛けて取り組むことを信じています。皆さま、ありがとうございました。

... 健康な子どもは世界の未来

参加者の感想

- 治療ではないため、子どもの健康に明らかな変化はないが、指導者から毎回優しくアドバイスをいただき、幼稚園に通い始めることができました。(親子教室をきっかけに特別幼稚園に通い始めました)
- ずっと家で独りぼっちだった私は、親子教室に参加して多くの人と関わり、子どもも新しい環境に慣れ、社会性が育まれていると感じています。
- 親子教室に参加し始めて、指導者の皆さん、他の子どもたちに慣れ、すべての活動に一人で参加できるようになりました。社会性が育まれています。家にいる時は同じ手遊び歌を歌って遊んでいます。
- 親子教室に慣れ、楽しんで参加しています。新聞遊びや手遊び歌等、親子教室で習った遊びを家でもやりたがります。

第1章 親子教室の基本的理解

1.1 親子教室とは

親子教室は、障害や発達に遅れのある子どもの健やかな成長を支えるため、集団での遊びの場を提供し、子育てに関する家族の相談に応じることで、子どもの発達を支援するために実施するものです。また、子どもの状態や生活状況を理解した上で、就学前教育（幼稚園）へのつなぎの支援を提供します。

家庭保健センターで行われる1歳6カ月児健康診査の後の支援プログラムとして位置づけられます。また、第2次・第3次医療機関や障害児の保健・教育・社会保障支部委員会（以下、支部委員会）から紹介を受け、親子教室につながる子どもも想定されます。以下の図は、各区・県レベルの発達支援体制のモデルです。親子教室の位置づけを示しています。

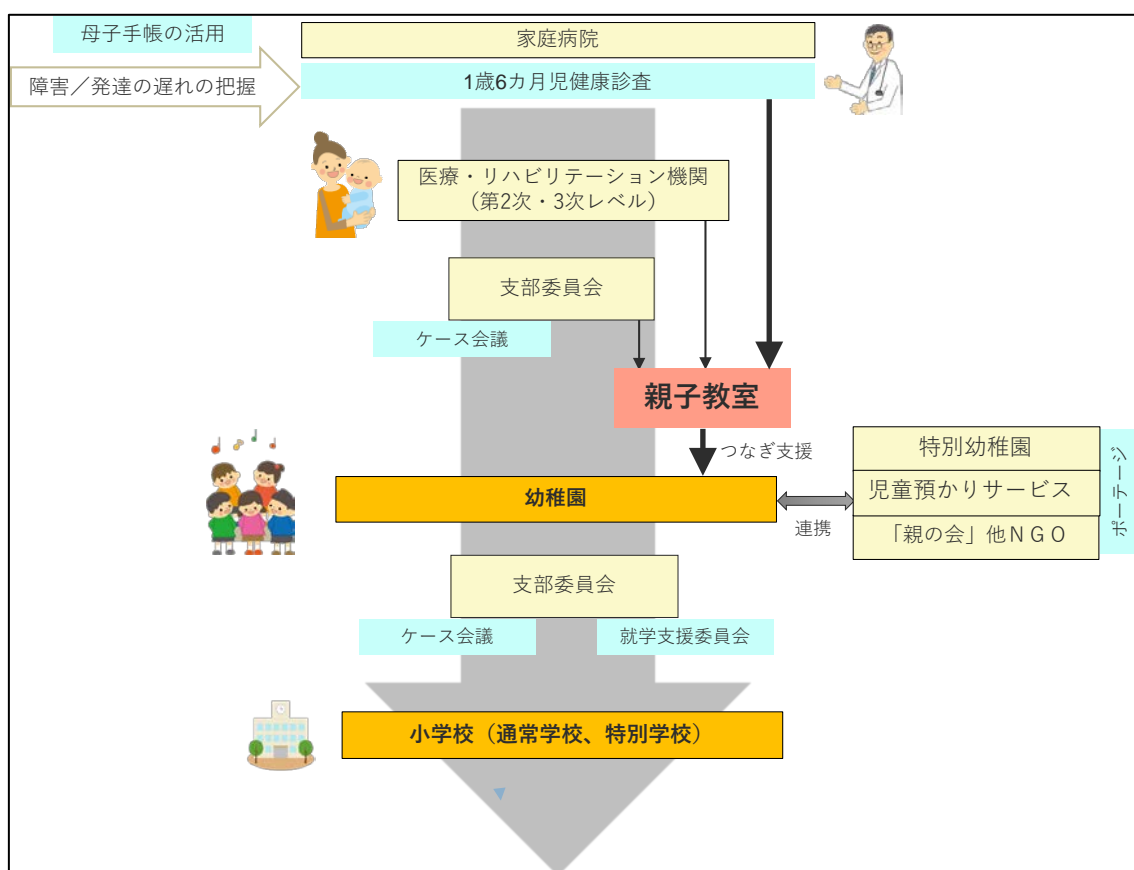


図1 区・県の発達支援体制のモデルにおける親子教室の位置づけ

1.2 親子教室における基本的理念

国連「障害者の権利に関する条約」では、障害児者の地域社会へのインクルージョンが謳われています。また、障害者権利法の第28条で示されている「...発達の遅れのある子どもに対して特別のプログラムに従ってサービスを提供することに政府がサポートする」などのモンゴル国の法律の考え方にに基づき、障害の有無に関わらず、すべての子どもがともに成長できるよう、環境や社会を整えていく必要があります。親子教室は、障害のある子どもが、住んでいる地域の中で、他の子どもとともに成長することを支援する取り組みです。

また、国際生活機能分類（ICF）¹で示されている障害の考え方にに基づき、親子教室は、子どもの機能障害の回復に取り組むのではなく、子どもと家族の強みに着目し、肯定的に関わるとともに、子どもの健やかな成長を支えるために環境（家族や社会）に働きかけることを基本とします。

1.3 親子教室における支援

親子教室における主な支援は、障害のある子どもの健やかな成長に向けた（1）子どもの発達支援、（2）家族への支援、（3）幼稚園へのつなぎの3つです。

1.3.1 子どもの発達支援

親子教室の遊びのプログラムを通して、乳幼児期の発達に重要な活動に取り組み、心身の発達を促します。また、親子教室での活動を家庭でも取り組むよう家族に助言を行い、日々の生活の中で子どもの発達を促すよう支援します。

1セット6回の親子教室では、毎回同じプログラムを実施します。毎回同じプログラムに取り組むことにより、指導者や保護者は子どもの発達（変化）を確認することができます。

1.3.2 家族への支援

障害のある子どもの支援においては、その子どもを育てる家族への支援が重要です。障害の特性や子どもの発達段階に応じて、家族が積極的に子育てできるよう支援することにより、子どもの発達に良い影響を与えることが期待されます。親子教室で取り組む家族支援としては、具体的に以下が挙げられます。

¹ 国際生活機能分類とは、人間の生活機能と障害の分類法として、2001年に世界保健機関（WHO）総会において採択された。

- 子育てに関する心配や不安を軽減する
- 家族がわが子について理解し、積極的に子と関わり、子育てができるよう支援する
- 福祉資源（福祉サービスや地域で活用できるサービス等）について情報提供を行う
- 子育ての仲間づくりを支援する

1.3.3 つなぎの支援

障害の有無に関わらず、就学前教育において集団生活の経験は重要です。親子教室での経験を踏まえ、子どもが就学前教育の場である幼稚園に入園し、安定した園生活を送ることができるよう支援します。保護者に幼稚園就園に関する希望を聞いたり、幼稚園について情報を伝えます。また、指導者が、親子教室を通じて子どもの状態をアセスメントし、その情報を入園先の幼稚園に伝えることも有効な支援です。

1.4 実施方法

1.4.1 対象とする子どもと保護者

親子教室には障害や発達に遅れのある、未就学児とその保護者が対象です。

1歳6カ月児健康診査の後の支援プログラムとして実施する場合、1歳6カ月から3歳くらいまでの子どもが対象となります。

1.4.2 実施主体

各区県状況に応じて実施体制を検討することになりますが、親子教室は福祉、教育、医療分野が連携し実施に取り組む必要があるため、実施主体はそれらの分野を横断的に管轄する社会政策課/社会開発課が担うのが良いでしょう。社会政策課/社会開発課が、支部委員会、区県の保健局（保健センター）、幼稚園、NGO等との連携を調整し、実施体制を整えます。以下の図はフブスグル県の実施体制を表したものです。

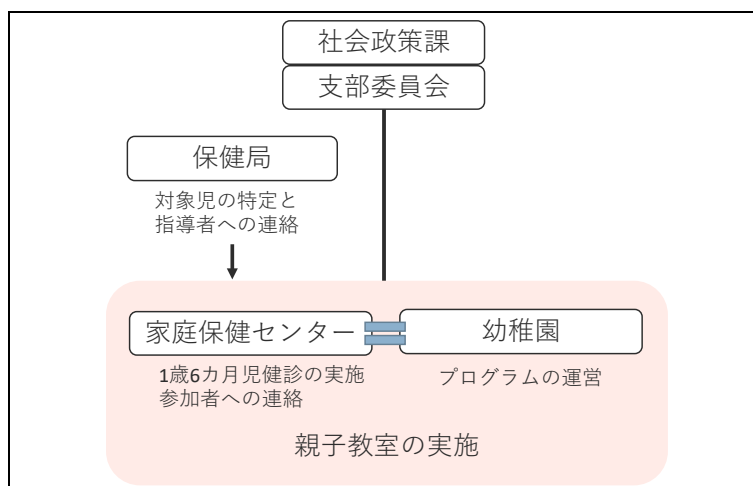


図2 フブスグル県における親子教室の実施体制

1.4.3 予算

備品購入及び指導者への謝礼にかかる経費が必要となります。

親子教室立ち上げ時の備品購入経費は約 MNT 1,000,000 です（2018 年時点）。

1.4.4 指導者

1 セットのプログラムに 10 人程度の子どもが母と父のどちらかと一緒に参加します。1 か所あたり 3 人～4 人の指導者が必要です。

指導者としては、幼稚園教員等、幼児期の子どもを相手とした業務経験を持つ方が適任です。指導者のうち、必ず一人は幼稚園教員としての経験のある方（または現職教員）を配置してください。他の指導者としては、教員、心理士、理学療法士、障害児の保護者の会のメンバーの方等が候補として挙げられます。なお、必ずしも障害について知見を有していない方でも大丈夫です。

1.4.5 実施規模

基本的に、参加する家族は一回あたり 10 組程度とします。

1.4.6 実施頻度と時間

月 1 回の開催とし、参加児一人あたり **6 回を 1 セット** とします。原則、6 回参加したら親子教室卒業となりますが、幼稚園への入園が決まっていない等、状況に応じ、継続参加を検討してください。

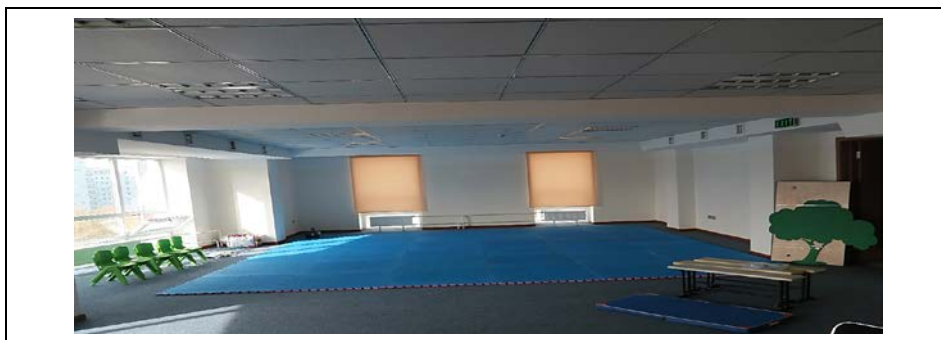
親子が参加しやすい時間帯を設定してください。午後は子どもが午睡をすることが多いため、昼食前の午前 10 時から 11 時での実施が良いでしょう。

1.4.7 実施会場

会場は、参加する親子にとってアクセスの良い場所を選びます。

また、子どもが体を動かす活動を行う際に差支えのない広さが必要です（20 m²）

会場内は、安全第一とし、不要な備品や器具は、取り除くか子どもが見えないところに隠しておくようにしましょう。



第2章 親子教室の実施

2.1 立ち上げ（準備）

2.1.1 実施体制及び実施会場の検討

「1.4.2 実施主体」を基に親子教室の実施体制を検討します。その後、関係機関を招集し、親子教室を実施する意義や内容について説明を行い、各機関の役割を明確にします。

（各機関の役割の例）

- 支部委員会：全体の統括、管理。参加する家庭に関する情報の取りまとめ
- 教育文化芸術局就学前教育課／幼稚園：会場の確保、指導者の選出
- 保健局／保健センター：18 カ月児の包括的な健康発達診査で障害または発達に遅れのあると発見された3歳までの子どもの家族/保護者と相談した上で参加を促すために主催者へのつなぎ支援を行い、参加家族へ連絡し、実施する日程を伝える（家庭保健センターから）

2.1.2 指導者の任命

関係機関と連携し、指導者（3～4人）を選出します。

現職の方を指導者とする場合、現職の職務分掌に親子教室に関わる業務を追加する等の措置を講じます。

行政組織外から指導者を配置する場合、謝礼についても検討します。

2.1.3 指導者の養成

本ハンドブックを用いて、指導者に対し研修を実施します。

2.1.4 必要な備品の準備



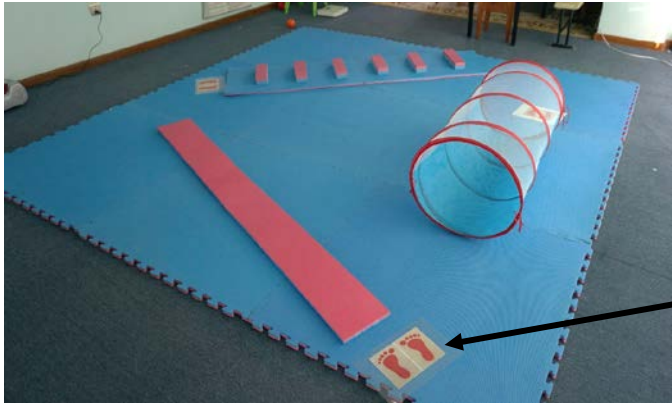
親子教室に必要な備品としてマット、プール、トンネル、カラーボール、CDラジカセ、その他の絵カードなどが含まれます。

フブスグル県で親子教室を立ち上げる時に購入した備品の費用について下表に例として示します。

表 1 備品購入費用

必要な備品		予算 (MNT)
1	マット	400,000
2	ビニールプール	60,000
3	トンネル	60,000
4	受付で使用する木	30,000
5	カラーボール	25,000
6	CD ラジカセ	170,000
7	連絡ノート／その他（ボール入れの箱、 絵合わせのカード、ふれあいプログラムの の花かんむり、運動プログラムの備品)	255,000
合計		1,000,000

マット（絨毯でも代替可）	ビニールプール	トンネル
		
受付で使用する木	カラーボール	ボール入れの箱
	 	

<p>絵合わせのカード</p>	<p>ふれあいプログラムの花かんむり</p>
	
<p>運動プログラムのサーキット</p>	
 <div data-bbox="1026 907 1289 1003" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>開始の位置が分かるように足型を置く</p> </div>	

<連絡ノート>

保護者とのコミュニケーションツールとして「連絡ノート」の活用をお勧めします。連絡ノートには、親子教室で取り組んでいる遊びに関する説明が書かれてあります。当日の子どもの様子やアドバイス等、指導者がメッセージを記入し、保護者に渡します。次の参加までに、保護者は日々の子どもの様子や悩み・質問等を記入し、当日受付で指導者に渡します。別添1の「連絡ノート」をコピーの上、活用してください。

 <p>“эх хүүхдийн хөгжлийн хөтөлбөр”</p>  <p>ХАРИЛЦАХ ДЭВТЭР</p> <p>Овог Нэр</p> <p>Нас Хүйс</p>	<p>Хайчилбар зургийг тохируулах</p>  <p>Хүүхдэд янз бүрийн хайчилбар зургаас дургуйгаа сонгон авч, ижил зураг дээр тааруулан байрлуулахыг зааж өгнө. Ингэх нь хүүхдийн харьцангуй мэдрэмдгээрээ ижил төстэй дүрсийг таних чадвар, хүний ярьж байгааг ойлгох чадварыг хөгжүүлэх ба хүүхэд ямар зүйлийг илүү анхаарч, сонирхож байгааг мэдэн сонирхлыг нь улам бүр тэтгэх боломжтой.</p> <p>Та ... сард “Эх хүүхдийн хөгжлийн хөтөлбөр”-г оролцсон тухай сэтгэгдэлээ хуваалцана уу.</p> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <p>Та хүүхдээ өсгөж бойжуулахад тулгамдаж байгаа асуудал болон эвчлэгөө явсагыг хүсэж буй зүйлээ тухай бүрт нь тэмдэглээрэй.</p> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>	<p>Хөтөлбөрийн үйл ажиллагаанд оролцож буй байдал ба хүүхдийн хөгжлийн эхний талварыг багшийн тэмдэглэл.</p> 
--	--	--

2.1.5 参加者の特定と連絡

親子教室の対象となる子どもを特定し、参加者リストを作成します。

参加者の特定にあたっては、保健局／保健センターと協力するのが良いでしょう。例えば、1歳6カ月児健診で発達の遅れが確認された子どもについて、家庭保健センターの医療従事者がリストを作成し、それらの情報を保健局／保健センターが集約の上、実施主体の機関（社会政策課/社会開発課）とリストを共有する、という方法が考えられます。

参加者リストが出来上がったら、実施主体の機関の指示の下、指導者が保護者に対し電話連絡を行い、親子教室について丁寧に説明した上で参加を促します。

保護者が子どもの障害や発達の遅れを受容していない場合もありますので、「障害／発達の遅れがあるから親子教室に来てください」といった言い方は避けてください。お子さんの成長を支えるための親子プログラムであることを説明しましょう。

また、親子教室の実施日の前には、参加確認の連絡をしましょう。連絡により、参加率が上がります。

2.2 当日の流れ

当日の流れは以下のとおりです。

子どもが午睡できるよう、午前中に実施するのが良いでしょう。

またプログラムの時間は目安です。子どもたちの様子を見て柔軟に対応してください。

表2 親子教室のスケジュール

(午前10時開始の例)

9:00	<u>事前準備</u> <ul style="list-style-type: none"> 会場設営 個人記録を基に、参加する子どもの前回の親子教室での様子と支援方針について、一人ひとり確認を行う
10:00~10:20	<u>集合・受付</u> <ol style="list-style-type: none"> 絵カードのマッチングと木に貼る活動 ボール遊び
10:20~11:00	<u>プログラム</u> <ol style="list-style-type: none"> 始めの挨拶（名前を呼んで返事をする） 手遊び歌「ゴヨゴヨ」（すべての活動の後で繰り返す） 新聞遊び 手遊び歌「ゴヨゴヨ」 運動プログラム（トンネル、またぐ、平均台） 手遊び歌「ゴヨゴヨ」 ふれあい遊び 手遊び歌「ゴヨゴヨ」 最後の挨拶
11:00~	<u>解散</u> <ul style="list-style-type: none"> 個別相談や指導者からの助言 保護者同士の交流
プログラム終了後、 1時間程度	<u>振り返り</u> <ul style="list-style-type: none"> 実施したプログラム全体を振り返り、改善点等について話し合う 個人記録（別添2）の項目に沿って、参加した子ども一人ひとりについて振り返りを行い、支援方針を検討する 合わせて、個人記録への記入も行う

2.3 プログラムの実施

プログラムの内容は、親と子どものやり取りを促すような親子遊びが中心です。乳幼児期に大切と言われる「人とふれあい関わること」「いろいろな感覚を感じることを経験できるよう工夫しています。また、家庭での取り組みが可能な活動にしていますので、家庭でも子どもと一緒にやってみよう、保護者を励ましましょう。

2.3.1 プログラム実施上の留意点

- 子どもの発達に合わせて活動への参加を促しましょう。例えば、泣いている子どもを無理に活動に参加させるのではなく、まずは親子教室に慣れるように他の子どもの様子を見ているだけでも大丈夫です。歩くのが難しい子どもの場合には、保護者が抱っこして一緒に活動に参加しましょう。
- 6回セットの親子教室の間にプログラムを変更しないでください。子どもの発達にとって、同じ活動を繰り返すことが大切です。また、同じプログラムを継続することによって、指導者と保護者も子どもの変化を見ることができます。
- 活動の初めには、主担当の指導者が活動について説明をします。例えば「次は、お花になりましょう」と言いながら、主担当が実際にやって見せましょう。
- 活動と活動の切り替えが、子どもにとって分かりやすいよう工夫しましょう。例えば、主担当が以下のような声掛けをして、活動の切れ目が分かりやすいようにします。
「皆さんとても上手にできましたね、次の活動に移りましょう」
「次の活動は何でしょうか」

2.3.2 主指導者と副指導者

指導者の中から、プログラム実施の主担当（主指導者）を決めてください。子どもと保護者が、プログラム全体を通して主指導者に注目できるよう進めましょう。主指導者は動き回らず、子どもたちを正面に向かい合ってプログラムの説明などを行うようにしましょう。

副指導者は、主指導者の補助を行い、個別に対応が必要な子どもや保護者の支援、子どものモデルとなる動きをします。

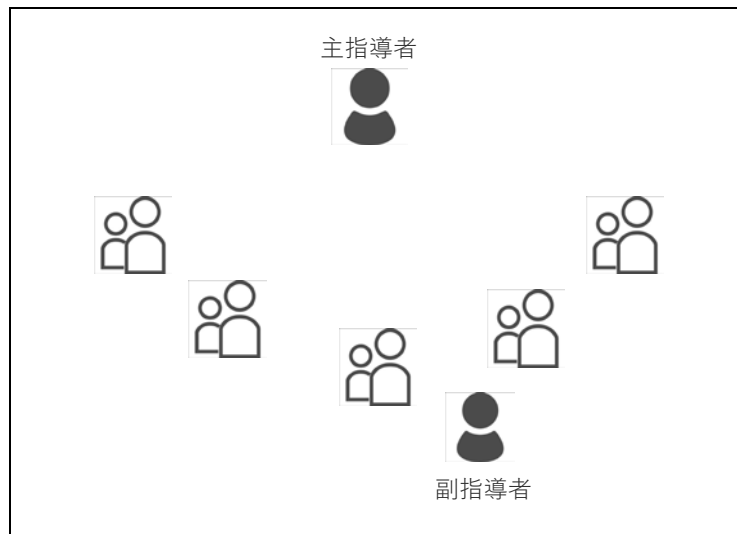


図3 主指導者と副指導者の位置

2.3.3 各活動に関する説明

「2.2 当日の流れ」の表.2 で紹介した、(1)~(8)の活動について説明します。

(1) 絵カードのマッチングと木に貼る活動

会場に到着後、最初に行う活動です。子どもが会場の様子に慣れ、落ち着いてから行うようにしましょう。

<p>いくつかある絵カードから好きなカードを選び、同じ絵の上に置く。絵を子どもに近づけて好きなものを選ばせるようにする。</p> <p><ねらい> 同じ形を認識する能力や言語を理解する能力を高める。</p>	<p>選んだ絵カードを木に貼る活動。</p> <p><ねらい> 指示を理解する能力や身体を操作する運動機能を育てる。</p>

(2) ボール遊び

プログラムが始まるまでの自由遊び。ボール遊びは、ボールという誰もが興味を持てる素材を通して、これから教室が始まることに向け先生に注意を集中させること。先生とのやり取りで簡単なコミュニケーションをすることが目的です。また、この間に、指導者は保護者へ家での様子や悩みを聞くなどコミュニケーションをとりましょう。

	
<p>ボールを投げたり、転がして遊ぶ。</p> <p><ねらい>指導者とのボールのやりとりを通して、関わり（コミュニケーション）の基礎を育てる。</p>	<p>遊びの終わりにボールを片付ける。</p> <p><ねらい>道具を片付けるという習慣を身につける。</p>

(3) はじめの挨拶

	
	<p>プログラムが始まることを伝え、子ども一人ひとりの名前を呼び、子どもはそれに応じて返事をする。</p> <p><ねらい>これからプログラムが始まることを子どもたちに意識させ、先生に注意を向けさせる。呼名に応答することを学習する。</p>

(4) 手遊び歌「ゴヨゴヨ」

活動と活動の間に歌います。ゆっくりしたテンポで歌いましょう。いつも同じ歌を歌うことで活動と活動の節目とし、次の活動へ注意を向けやすくなります。さらに、先生に注目し、歌の動作を先生を真似てできるようになることを目指します。

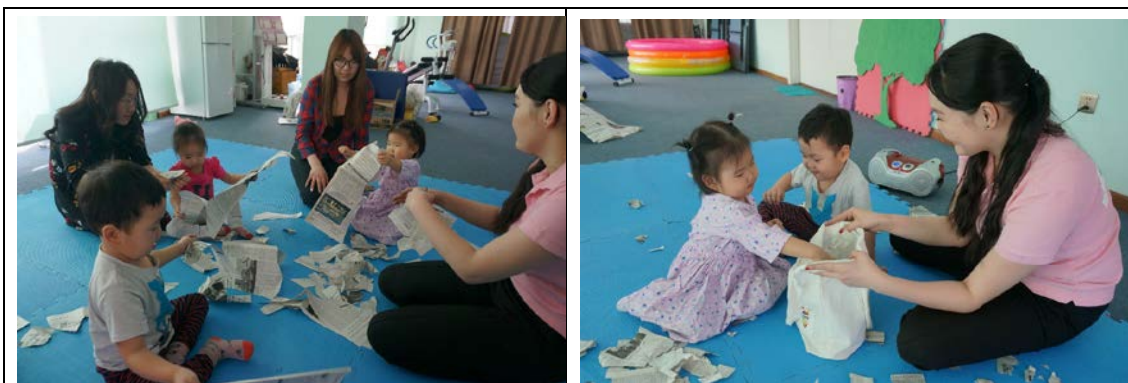


歌やリズムに合わせて手や身体を動かす遊び。

<ねらい>聴覚や視覚、触覚が刺激され、耳や目、皮膚、筋肉などの感覚器官とともに刺激を受け取る脳と、反応する身体の発達を促す。また、幼児期の子どもに最も大切な親子のスキンシップを密にとることでコミュニケーション能力や言語能力の基礎を高める。

(5) 新聞遊び-1)「新聞ちぎりとお片付け」

保護者や先生と一緒に、新聞紙をちぎる活動を手指を上手に使って行います。保護者が教えるやり方を理解し、真似て新聞をちぎります。はじめは保護者の膝の上で、だんだんと向かい合ってできることを目指しましょう。

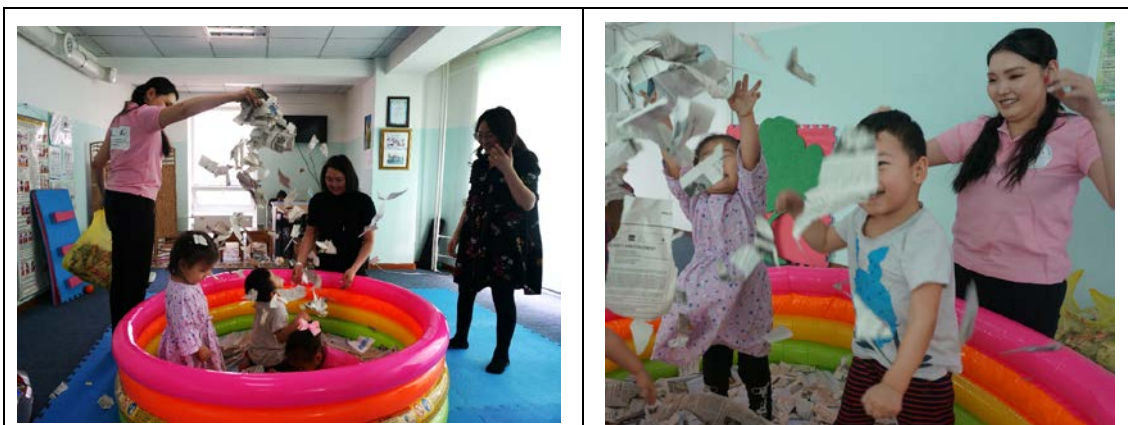


新聞紙を手や指を使ってちぎる、つまんで袋に入れる。

<ねらい>新聞紙をつまむ、握る、ちぎる遊びを通して、手の微細な動きを向上させることができる。また、新聞に働きかけることによって生じる音を聞く、形や動きの変化を見る、触れる、つまむ、握る感触など、さまざまな感覚刺激を得る。

(5) 新聞遊び-2)「新聞紙プール」

事前にちぎった新聞紙をたくさん用意しておいてプールの中に入れて遊びましょう。



ちぎってたくさんになった新聞紙でプール遊びをする。

<ねらい>さまざまな感覚の刺激を得る。たくさんの新聞やその音、たくさんの人の刺激が強く、初めのうちは泣き出すこともあるがお母さんと一緒だったら安心してプールに入り、新聞紙の刺激を楽しめるようにする。

(5) 新聞遊び-3)「新聞バルーン」

できるだけ大きなバルーンをつくり、子どもたち全員を中央に集めて行いましょう。



新聞紙をつなぎ合わせて作る大きな新聞バルーンを子どもたちに近づけたり離したりする。

<ねらい>さまざまな感覚の刺激を得る。音や高低、風の動き、明るい暗い等の感覚刺激を感じる。初めのうちは泣き出すこともあるが、お母さんと一緒だったら安心してバルーンの下にいられ、刺激を楽しめるようにする。

(6) 運動プログラム（トンネル、またぐ、平均台）

この時期の幼児に大切な様々に歩く活動をサーキット形式で順番に何回も経験する活動です。トンネルを四つ這いで歩く、細いコースを注意して（渡って）歩く、でこぼこ道をまたいで歩く。だんだんと、「順番に」、「コースからそれないで」、「待つ」などもできるようにしましょう。



親と子どもと一緒に、トンネル、はしご（またぐ運動）、平均台の運動遊びに取り組む。トンネル、はしご、平均台のそれぞれの手前には足型の絵が置かれている。子どもは足型のところに立ち、「〇〇ちゃん」「はい」といったやり取りをしてから、始める。

<ねらい>乳幼児期に育みたい身体の動きを取り入れた運動遊びを行うことにより、子どもの運動発達を促す。また身体を動かすことは、言葉や心の発達においても重要である。

(7) ふれあい遊び

愛着形成の基礎となる親子でのふれあい遊びです。お母さんや保護者に抱かれて、言葉に合わせて、お花が「大きくなる」「風で揺れる」など、指導者の動きに合わせて動きます。



親と子どもが花の帽子をかぶり、花になって、親が子どもを高く上げたり、左右にゆらして遊ぶ。最後に、床に落ちた葉っぱや花、実をひろって木に貼り付ける。「どこに、何を」を理解して取り組む。

<ねらい>子どもの様々な感覚を刺激し、それに対するバランス等の反応を高める。お母さんと体全体で関わり、親子のコミュニケーションを図る。

(8) 最後の挨拶

最後にもう一度「ゴヨゴヨ」を歌い、指導者に注意を戻してプログラムの終わりを伝える準備をします。そして、呼名を通して、今日の活動で頑張ったことを子どもと保護者に伝えましょう。例えば、「〇〇ちゃん、今日は運動プログラムを最後まで一生懸命がんばりました」。

2.4 指導者の役割

2.4.1 指導者として大切なポイント

指導者は以下の点を大切にして、親子教室の実施・運営に取り組みましょう。

- 障害児としてとらえるのではなく、「子どもである、〇〇ちゃん、〇〇くん」として関わることが大切です。
- とにかく子ども褒めましょう。新しいことにチャレンジする意欲につながり、それが子どもの発達を促します。
- 保護者（家族）が子どものことを理解し、発達の支援者となっていくように、保護者を支援することが大切です。そのためには、保護者の不安に寄り添うとともに、活動中に上手にできたことや子どもの良い点を伝えて、楽しさや嬉しさを保護者と

共有しましょう。保護者を否定したりせず、共感的理解を示しましょう。

- 保護者からの質問に対しては、丁寧に、相手にとって分かりやすい言葉で回答しましょう。すぐに答えられない場合には、いつ答えられるかを説明し、早期に回答できるよう努めましょう。

2.4.2 指導者の役割

指導者の役割は主に以下のふたつです。

(1) 親子教室の運営と実施

- 参加者への連絡：1) 参加者が特定されたら電話にて丁寧に親子教室の説明を行い、参加を促す、2) 実施日の数日前には参加者一人ひとりに電話連絡を行い、子どもの様子を確認し、参加を促す。
- 事前準備（会場設営）：備品の確認を行い、会場を設営する。
- プログラムの実施

(2) 子どもと家庭のアセスメントと発達支援

- プログラム中：子ども一人ひとりのプログラムへの参加の様子を観察する。また保護者から家庭での子どもの様子や保護者の悩み等について聞き取りを行う。
- プログラム後：個人記録の項目に沿って、参加した子ども一人ひとりについて振り返りを行い、支援方針を検討する。
- 支援方針に基づいて、子どもとの関わり方や幼稚園就園等について保護者に助言を行う。
- 幼稚園へのつなぎ支援として、保護者の承諾を得た上で、就園希望先の保育園に当該児の親子教室での様子（良いところや配慮すべき点等）を共有する。

2.5 留意点

2.5.1 情報の取り扱い

個人情報の取り扱いには十分に留意しましょう。

親子教室実施の際に知り得た子ども及び家庭に関する情報や写真については、親子教室実施以外の場で、他の機関（保育園、医療機関等）に公表してはいけません。

個人記録の取り扱いについては、実施主体の規定に基づき、適正に管理をしましょう（特に保管方法や保管場所、保管期間の確認）。

2.5.2 見学者について

見学者に対しては、写真や動画を撮影しないよう厳重注意しましょう。

また、子どもがいつも通り活動に参加できるように、子どもたちから少し離れたところに見学席を設けましょう。

別添 1 連絡ノート



Тусгай хэрэгцээт боловсрол шаардлагатай хүүхдэд үзүүлэх
эрүүл мэнд, боловсрол, нийгмийн хамгааллын үйлчилгээг
сайжруулах төсөл

“ЭХ ХҮҮХДИЙН ХӨГЖЛИЙН ХӨТӨЛБӨР”



ХАРИЛЦАХ ДЭВТЭР

Овог Нэр

Нас Хүйс



Ээж аав та бүхнийг “Эх хүүхдийн хөгжлийн хөтөлбөр”-т хүүхдийнхээ хамт идэвхтэй оролцож тэднийхээ хөгжлийг дэмжэж байгаа санаачилгад талархал илэрхийлье. Та энэхүү “Харилцах дэвтэр”-т хүүхдийнхээ хөгжил, өсөлт бойжилтод гарч буй аливаа асуудлуудыг тухай бүр бичиж тэмдэглэн хөтөлбөрийг явуулж байгаа багш нартай чөлөөтэй харилцаж, санал бодлоо хуваалцаж байгаарай.

Ингэснээр таны хүүхэд юу хийх дуртай, юу чадаж байгааг тухай бүр тогтоож, цаашид яаж сайжруулах, хөгжүүлэх талаар хамтран шийдэх боломжтой. “Харилцах дэвтэр”-ээ үргэлж ашиглаж, хаяж гээлгүй нандигнан хадгална уу.



Хайчилбар зүргийг мөдөнд наах



Хүүхдэд сонгосон зургаа мөдөнд наахыг зааж өгнө. Эхлээд ээж өөрөө хийж үзүүлэх ба хүүхдийг дагаж хийлгүүлнэ. Энэ үйлдлээр дамжуулан, хүүхэд бусдын зааврыг ойлгох болон өөрийн хөдөлгөөнөө удирдах чадварыг сайжруулж, хөдөлгөөнийг хөгжүүлэх ач холбогдолтой.

Та сард “Эх хүүхдийн хөгжлийн хөтөлбөр”-г оролцсон тухай сэтгэгдлээ хуваалцана уу.



Та хүүхдээ өстөж бойжуулахад тулгамдаж байгаа асуудал болон шалтгааныг автахыг хүсэж буй зүйлээ чөлөөтэй тэмдэглээрэй.





Хөтөлбөрийн үйл ажиллагаанд оролцож буй байдал ба хүүхдийн хөгжлийн ахицын талаарх багшийн тэмдэглэл.









Хөдөлгөөнт дүү



Үзүүлэх тархи, бие эрхтний хөдөлгөөнийг хөгжүүлдэг. Түүнчлэн хүүхдийн хувьд хамгийн дотны хүн болох ээж нь хүүхдээ энгэртээ тэвэрч, магтаж эрхлүүлэх нь хүүхдийн харилцааны чадвар болон хэл ярианы суурь чадварыг ч сайжруулах ач холбогдолтой.

Та сард “Эх хүүхдийн хөгжлийн хөтөлбөр”-г оролцсон санал сэтгэгдлээ хуваалцана уу.



.....

.....

.....

Та хүүхдээ өстөж бойжуулахад тулгамдаж байгаа асуудал болон зөвлөгөө авахыг хүсэж буй зүйлээ тухай бүрт нь тэмдэглээрэй.



.....

.....

.....

Хөтөлбөрийн үйл ажиллагаанд оролцож буй байдал ба хүүхдийн хөгжлийн ахицын талаарх багшийн тэмдэглэл.



Харилцаж тоглох



Энэ нь эх хүүхдийн хоорондын итгэлцэл, эрхэлж наалдах харилцаанд суурилсан бие биедээ хүрэлцэж, харилцан тоглох үйл ажиллагаа юм. Ээж нь суугаагаараа хүүхдээ өвөр дээрээ зогсоон, үндсэн багшийн хэлэх ҮГ, үзүүлэх хөдөлгөөнийг дуурайж “цэцэг томоос том ургалаа”, “цэцэг сэлхинд ганхан найгалаа” гэх зэргээр хүүхэдтэйгээ хамтдаа найган хөдөлж тоглоно. Энэ тоглоомын үед хүүхдийн олон мэдрэхүйг цочроох, тэнцвэрээ хадгалах зэрэг харму үйлдэл үзүүлэх чадварыг нь хөгжүүлнэ. Ээж хүүхэдтэйгээ бүх биеэрээ харилцаж, эх үрийн харилцаа улам дотносон ойртоно.

Та сард “Эх хүүхдийн хөгжлийн хөтөлбөр”-т оролцсон санал сэтгэгдлээ хуваалцана уу.

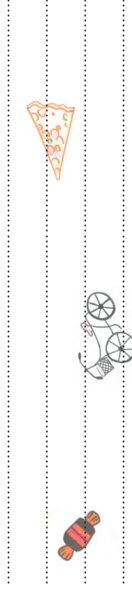
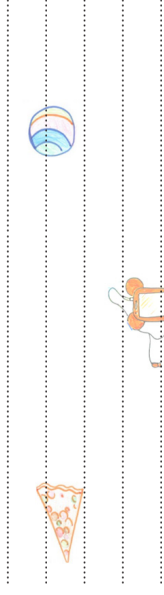
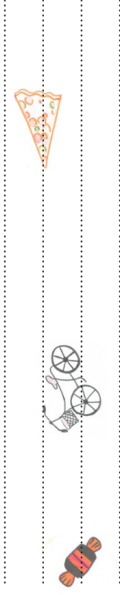


Та хүүхдээ өстөж бойжуулахад тулгамдаж байгаа асуудал болон зөвлөгөө авахыг хүсэж буй зүйлээ тухай бүрт нь тэмдэглээрэй.





Хөтөлбөрийн үйл ажиллагаанд оролцож буй байдал ба хүүхдийн хөгжлийн ахицын талаарх багшийн гэмдэглэл.





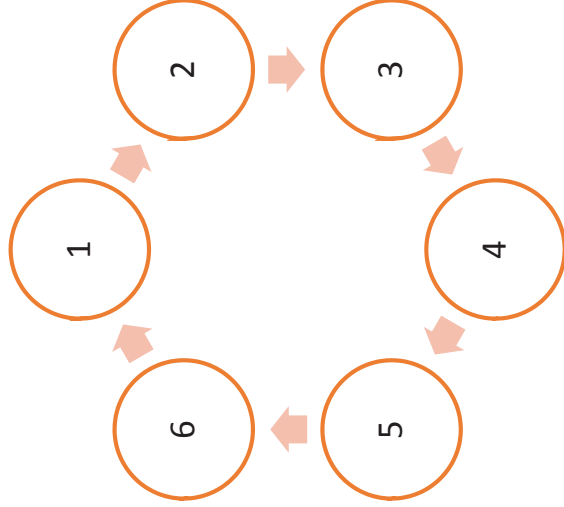
“Эх хүүхдийн хөгжлийн хөтөлбөр” нь бага балчир хүүхдийг тоглоомын аргаар хөгжүүлэх, тэдний эцэг эх, асран хамгаалагчдад дэмжлэг, зөвлөгөө өгөх зорилготой үйл ажиллагаа юм.

Үе тэнгийн олон хүүхдүүд хамтдаа зугаацан тоглох, асран хамгаалагчид бусад эцэг эхчүүдтэй нээлттэй ярилцаж, хүүхэд өсгөж бойжуулах талаар туршилагаа хуваацан, мэдээлэл солилцож, баги болон бусад холбогдох мэргэжилтнээс зөвлөгөө авах боломжтой хөтөлбөр юм.

Бид энэхүү хөтөлбөрөөр дамжуулан эцэг эх, асран хамгаалагч та бүхэнд гэр орондоо үр хүүхдээ тогтмол хөгжүүлэх чадварыг дээшлүүлэх нэгэн зорилгоор тусалж дэмжин, чин сэтгэлээсээ ажиллаж байна.



Хөтөлбөртөө тогтмол ирсэнд баярлалаа.



別添 2

参加者個人情報と参加記録（フォーマット及び例）

	自分で	説明:		
	その他	説明:		
健康状態	合併症の有無 □有() □無			
	薬の服用 □有() □無			
支援サービスを受けているところ	病院、療育	社会保障	教育	その他
保護者の親子教室に対する期待				
備考				

参加記録

名前: _____

<本人・家族の願い>

--

<親子教室の記録>

第 回目(月 日)

参加の様子	
好きな活動、得意なこと	
前回からの変化	
保護者の様子、保護者から聞いたこと	
助言	
支援方針	

親子教室参加者個人情報（例）

氏名	B.Kh	
性別	♂ / 女	
生年月日	2016. 05. 04	
保護者名	D(母)	
連絡先	88〇〇〇〇〇〇	
家族構成(名前・続柄)	<input checked="" type="checkbox"/> B (父) <input checked="" type="checkbox"/> D (母)	
*同居している家族は□にチェックをいれる	<input checked="" type="checkbox"/> 姉2人 家族5人、子供3人	
住所	フブ県、Murun ソム、第〇バグ、〇〇-〇〇	
住居形態	<input type="checkbox"/> マンション地区 <input type="checkbox"/> 中央暖房や水道などがあるハウス <input type="checkbox"/> マンション <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> 寮 <input type="checkbox"/> その他 /...../	<input checked="" type="checkbox"/> ゲル地区 <input checked="" type="checkbox"/> 暖房や水道などのない一戸建て <input type="checkbox"/> ゲル <input type="checkbox"/> 借りている (<input type="checkbox"/> 居住ユニット(ハジャー) <input type="checkbox"/> 一軒家) <input type="checkbox"/> ゲル <input type="checkbox"/> その他 /...../
親子教室へ紹介した機関	<input checked="" type="checkbox"/> 18ヶ月児健康発達診査	受診した年月日:2017年11月24日(18ヶ月20日) 診断・評価:ダウン症 医師による助言: - 一日に3~4食を食べる、1~2回軽食を食べる - 子どもが自分で歯を磨けるように教える - コップから飲めるように教える - 一人歩きをサポートする - 母子保健センターの眼科医で診察を受ける - 運動療法と作業療法を受ける
	<input type="checkbox"/> 家庭保健センター/ソムの保健センター	診断・評価: 医師による助言:

	□支部委員会	定例会議に出た年月日:			
		支部委員会にいる判定:			
		診断名:			
		障害種別:			
	能力損失状況:		社会福祉手当での受給状況		
		<input checked="" type="checkbox"/> 有() <input type="checkbox"/> 無			
自分で		説明:			
その他		説明:			
健康状態	合併症の有無				
	<input type="checkbox"/> 有() <input checked="" type="checkbox"/> 無				
	薬の服用				
	<input type="checkbox"/> 有() <input checked="" type="checkbox"/> 無				
支援サービスを受けているところ	病院、療育	社会保障	教育	その他	
	家庭保健センターと 県立総合病院の小児 科医で経過診察を受 けている。	受給中。	幼稚園に通って いない。家にい る。		
保護者の親子教室に対する期待	子どもの社会性を高め、言語力を促したい。また、このような障害を持つ子どもたちがどこで教育を受け、社会でどのように自立した生活ができるかについて情報を取得したい。わが子が他の子どもと同じく就園年齢、就学年齢で教育を受けて欲しいと願っている。				
備考	予定日より早く産まれた（出生時の体重：1800グラム）。心室中隔欠損症と慢性気管支炎がある。風邪を引きやすい。家では「プリンス」（モンゴル語：Khankhuu）という名前と呼ぶ。				

参加記録用紙（例）

名前：_B. Kh_____

<本人・家族の願い>

集団の中に嫌がらずに入り、自分の要求を他者に表現し、言葉を話してほしい。
また、一人で歩けるようになって欲しい。

<親子教室の記録>

第1回目（4月4日）場所：保健局

参加の様子	お母さん、お姉ちゃんと一緒に来た。ボール遊びでは他の子どもたちの中に入って遊び始めた。人見知りしなかった。名前では呼ぶと振り向く。運動遊びの平均台の上を歩くのが嫌で、マットの上に寝た。嫌がりトンネルの中を通らなかった。手指の筋肉が弱く、新聞紙をほとんど破らなかった。すべての活動にお姉ちゃんの手助けで参加した。
好きな活動、得意なこと	プールの中での新聞紙遊びを楽しみ、その中から出たがらなかった。バルーンを遊びでもとても喜んでいた。
前回からの変化	
保護者の様子、保護者から聞いたこと	家ではいつもお姉ちゃんと一緒に遊んでいる。今日は親子教室に参加することができて本当に良かった。このプログラムに通うことで我が子にたくさんの変化が出ると期待している。自宅で同様な活動を一緒にしようと思う。
助言	親子教室は合計6回実施されるため、欠席せずに毎回来ること。 各遊び、活動を順番通りに家で復習すること。特に今月は新聞紙のやぶり方を教えてあげる。なるべく毎日手遊び歌をたくさん聞かせ、兄弟が動作を見せて教える。 子どもの下半身の筋肉の発達が弱いいため、なるべく立位姿勢をとらせ、好きな物を彼の身長より上に置いて取らせるなどの練習をする。
支援方針	県立総合病院の運動療法士または近くの療養所でリハビリ療法を受けること。通常幼稚園に入園する。

2回目（5月8日）場所：保健局

参加の様子	先月と同じくお母さん、お姉ちゃんと一緒に来た。最初はお姉ちゃんの膝の上に座っていたが、数分後に立ち上がって集団の中へ入り、ボールで遊び、片付けもした。手遊び歌の曲に合わせてお尻をついて座った姿勢のまま踊った。歌の動作をお姉ちゃんと一緒にやった。名前と呼ぶと振り向く。運動遊びのトンネルを腹ばいで通った。
好きな活動、得意なこと	<ul style="list-style-type: none">- ボール遊び- ボールの片付け- 木に花を貼る活動
前回からの変化	先月に比べ、新聞紙を上手にやぶることができていた。更に、歌の曲に合わせて座った姿勢で踊っていた。
保護者の様子、保護者から聞いたこと	家でお姉ちゃんが積極的に歌を歌い聞かせ、一緒に新聞紙をやぶる練習をしたため、今日は良くできたと思う。今後も欠席せずに毎月参加したいと考えている。
助言	家で子どものために様々な取り組みをしていることについて、保護者を褒めた。県立総合病院でリハビリテーションを受け、子どもの下半身の筋肉の発達を促す他に言葉のやり取りも増やす必要があると助言した。
支援方針	自分で食べる力を促す。自立性を向上させ、通常幼稚園に就園すること。